

知財から見たエネルギー技術の 動向と今後のビジネス

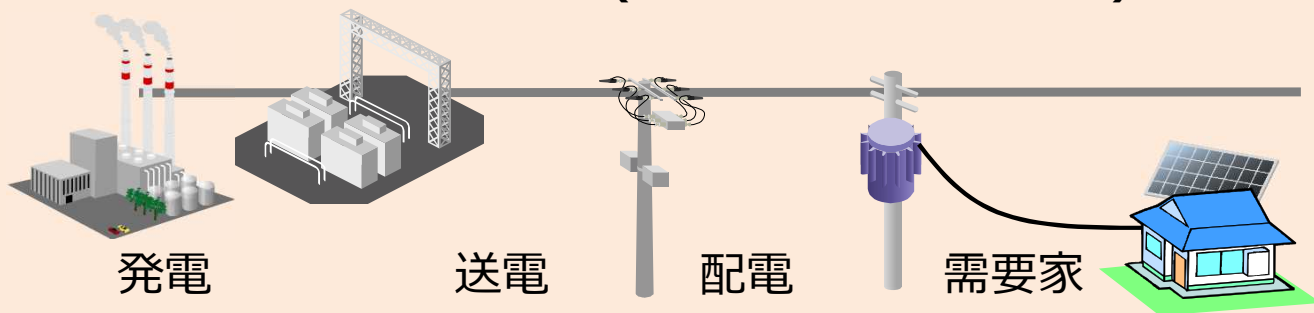
明星大学 理工学部 石田隆張

エネルギーインフラである電力・ガスの自由化、並びに技術の標準化が進み、多くのプレイヤーがこのビジネス分野に参入してきています。本報告では知財の調査をもとに現在の動向を把握し、今後のエネルギービジネスのありかたについて議論を行います。

■ 知財調査の考え方

(4階層(発電・送電・配電・需要家), 2分野(電気工学・機械工学)で特許調査)

特許検索キーワード：(発電+送電+配電+需要家)×エネルギー



■ エネルギービジネスの動向(分析結果)

国際特許分類(IPC)の技術分類に従い、分野ごとの各階層における出願数を円の大きさで示します(図1, 図2).

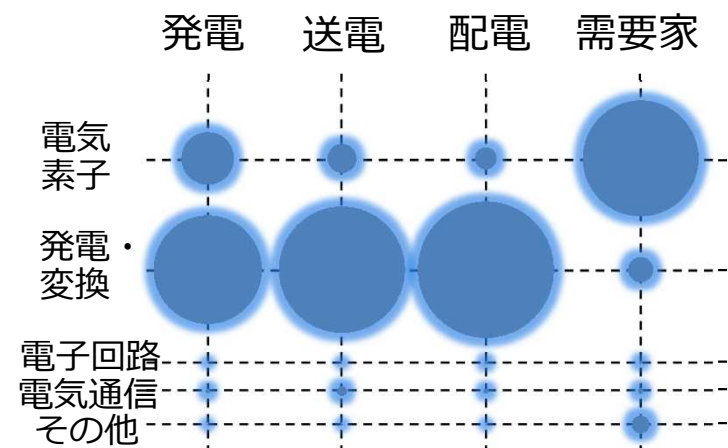


図1 電気工学分野の出願動向

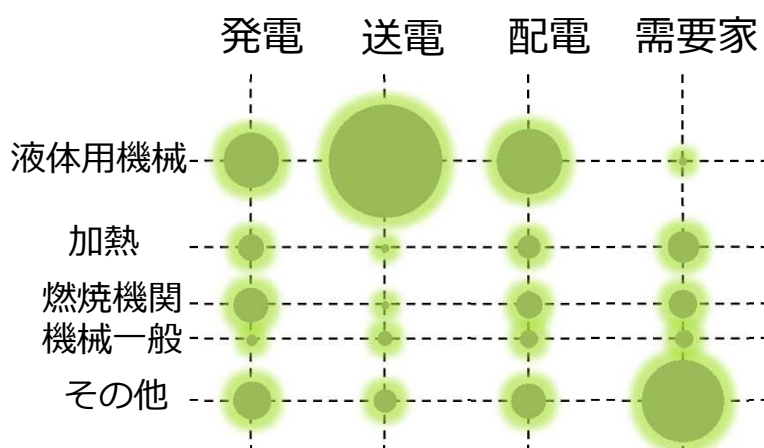


図2 機械工学分野の出願動向

■ 今後のビジネス

エネルギービジネスにおける機器・装置のモジュール化・小型化が進むことが予想されるため、図1、図2に示した大きな円の位置が需要家側に移動した場合のサービス、ビジネス、製品開発を考える必要があります。